

令和3年度 事業報告

【総括】

令和3年度を総括すると、令和2年春以降の新型コロナウィルスの勢いの留まらない中、不安定な世界情勢も相まり、「日々繰り返される安定した日常」の感覚を取り戻し維持することの難しさを感じる1年であった。どのような明日を迎えるかわからない、という感覚は自覚、無自覚にかかわらず私たちに緊張感や閉塞感を与えた。

当法人の活動においてもこのような情勢の影響を感じる場面が少なからずあった。フリースペースふらっと内では東京都や町田市のコロナ感染の状況やワクチン接種に関する会話、心配する声が日常的に聞かれた。法人としても自主事業を行っていることもあり国や自治体からの活動に関する明確なガイドラインがあるわけではなく、町田市や周辺関係機関からの情報、現場での声を受けながら総合的判断によりフリースペースの開閉所、活動の枠組みやあり方を決めてきた。

この状況は社会的に孤立した生活を送る人達にとって、不安を分かち合い共に乗り越える機会に乏しいが故に心身に大きな影響を受けたといえる。

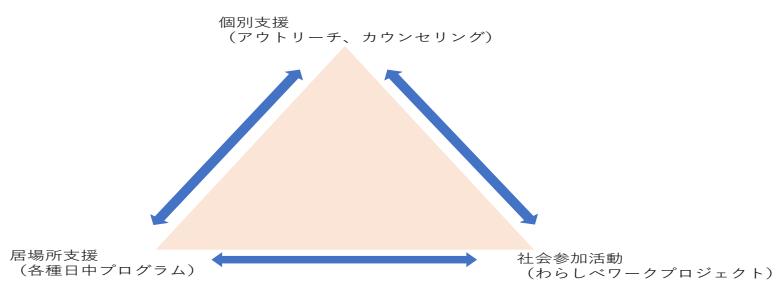
一方でこのような状況下であるからこそ、私たち自身の活動や思いについて考えを深める契機となつた面もあった。どのような環境を創出すれば大きな不安を抱えることなく活動が継続的に展開できるか、完全な収束を見込むことが現時点で難しいコロナ禍での生活をどう受け入れ、これから先の日常生活に統合していくか、という命題は日々の活動のレベルでも法人としてとるべき大きな指針というレベルでも大きなテーマとしてあった。次年度以降も向き合うことになるテーマであるといえる。

さて今年度は若者支援事業部において職員を3名雇用し、これまで職員の不足により叶わなかった「個別支援－居場所支援－社会参加活動」のすみ分けを図った（下図）。

このモデルの特徴として、

1. 利用する若者が一人ひとり、ゆどうふの支援をどのような形で受けるかについて選択できる幅が広がること
2. 各セクションが一方向のステップモデルになっておらず、本人が納得いくまで行ったり来たりの試行錯誤が可能であること

があげられる。



同モデルは八王子市、日野市など他自治体からも関心を集めしており、法人スタッフが事業説明、講演に赴いている。

・自己表現サポート事業

一方、自己表現サポート事業では令和元年以来の音楽イベント（Yudo ! Festival2022）を実施した。今回のイベントでは初めて、当法人単独主催ではない、3団体での共催という形で興行を行った。またアサーション事業については、当法人の自主事業の確立を目的として令和4年1月より事業拡大の形の検討を進めている。

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【3872】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者のべ人数	受益対象者範囲	受益対象者のべ人数	事業費(千円)
ひきこもり状態の当事者又はご家族に対する支援活動	フリースペース運営等	2021年4月1日～2022年3月31日 (計 271日)	フリースペースふらっと (東京都町田市 小山町 2595 - 1)	658人	ゆどうふ 利用登録 者等、生 きづらさ を抱えた 若者	639人	1143
ひきこもり状態の当事者又はご家族に対する支援活動	ひきこもり当事者及びひきこもりの子を抱える親グループ活動指導事業	2021年4月1日～2022年3月31日 (毎週金曜日、第3火曜日)	町田市保健所 中町庁舎	118人	グループ 登録者 (当事者、親)	185人	905
ひきこもり状態の当事者又はご家族に対する支援活動	専門サポート事業	2021年4月1日～2022年3月31日	フリースペースふらっと (東京都町田市 小山町 2595 - 1) 及び訪問先	319人	ゆどうふ 利用登録 者等、生 きづらさ を抱えた 若者とご 家族	319人	1628
ひきこもり状態の当事者又はご家族に対する支援活動	わらしへワークプロジェクト	2021年4月1日～2022年3月31日	町田市小山地区を中心とした市内各地	97人	生きづらさ を抱えた 若者	137人	0
自己表現サポート事業	アサーションワークショップ	2021年6月、12月	フリースペースふらっと (東京都町田市 小山町 2595 - 1)	2人	アサシ ョンにつ いて関心 のある方	11人	146
自己表現サポート事業	アサーションプログラム	2021年12月14日、16日、2022年3月1日、3日	さがみはらサ ンエール	3人	さがみは ら若者サ ポートス テーショ ン利用者	31人	40
自己表現サポート事業	Youdo ! Festival 2022	2022年2月22日	せりがや冒険 遊び場	30人	文化活動 を通した 表現に関 心のある	出演者、 スタッフ 30名 来場者	10

					方	120名	
--	--	--	--	--	---	------	--

(2) その他の事業
なし

【法人より報告】

令和3年度計画（令和3年6月策定）

項目	内容
1. 職員体制の拡充	ボランティア研修
	アウトリーチ可能な人材育成
2. 町田市/地域団体との連携	① 行政（町田市）②地域（小山地区）
3. 運営費の確保	寄附、会員の増加
	・公益財団法人トヨタ財団 2021年度国内助成
	・社会福祉法人丸紅基金 2021年度（第47回）社会福祉助成金
	・社会福祉法人赤い羽根共同募金に申請予定
	町田市保健所事業委託
	・利用メンバーの増加 ・アサーション事業
4. 広報活動	ホームページのリニューアル

1.職員体制の拡充

・職員の新規雇用

今年度は三井泰平氏、峰崇氏、中村三樹氏の3名を新規雇用した。3名ともにボランティアスタッフとして一定期間活動に関わった後に雇用契約を結んでいる。現在、三井氏は居場所ふらっとの責任者として利用者への対応、グループワークやプログラム実施の他、職員に対する研修講師を担っている。峰氏はわらしべワークプロジェクトの責任者として若者、居場所とワーク依頼者とのコーディネートを担っている他、地域関係機関との連携促進に当たっている。中村氏は峰氏とともにわらしべワークプロジェクトのコーディネーター及び事務局を担う他、居場所支援にも当たってもらい、若者が各セクションをスムーズに選択できるべく橋渡し的役割を担っている。

・ボランティア研修

令和3年度も多くのボランティアスタッフに活動参加していただいた（居場所支援サポート、わらしべサポーター等）。今年度も毎月最終土曜日にボランティア研修を実施、法人事業に関連の深いテーマを設定し、ボランティア参加者が学ぶ機会、相互交流の機会を創出した。研修講師は法人スタッフ、理事等が交替で担当した。

2021年度ボランティア研修

日時		テーマ（仮）	担当
4月24日	土	居場所での関わり方/プログラム策定	三井 泰平
5月29日	土	統合失調症の理解と支援のポイント	藤田 実優
6月19日 ～20日	土	アサーション WS	辻岡 秀夫
	日		
7月24日	土	ゆどうふガイドラインを読み解く	三井 泰平
8月28日	土	バウンダリーについて	織田 鉄也
9月25日	土	アウトリーチ（訪問支援）研修	辻岡 秀夫
10月30日	土	「あなたならどうする？利用者の断片的な情報から何を想像し、どう関わるか？」	竹内 佑一
11月27日	土	ひきこもりピアサポートゼミナールについて	割田 大悟
12月11日～12日	土	アサーション WS	辻岡 秀夫
	日		
1月15日	土	居場所で居心地よく過ごすには/成年後見人制度	門司雅人/藤田実優
3月26日	土	ゆどうふの居場所に関する Q&A	三井 泰平

・アウトリーチ実施可能な人材の育成

アウトリーチに関しては前年度と同じく職員1名で対応している。サポートの性質上、すでにアウトリーチに出向いているケースにおいて新規に同行者を増やすのは少なからず本人の抵抗が働くことや、緊急性やリスクの見立てが必要である支援であるが故一定期間の実施経験が必要な面もあり、すぐに従事者を増やすには至っていないが、可能な限り多くの支援スタッフに参画してもらうことでより手厚い支援が可能となればと考えている。

2.町田市/地域団体との連携

◆町田市

町田市保健所の事業である「2021年度ひきこもり当事者及びひきこもりの子を抱える親グループ活動指導事業」をプロポーザルを経て受託することが決まり実施した。契約は単年度契約であるが、2022年度の継続受託も決定している。兼ねてより目指していた町田市との事業連携の第一歩を踏み出すこと

ができた。事業受託以外においては 2017 年度から参加している保健所主催の「ひきこもりネットワーク会議」に代表者団体として参加、同会議の運営、企画に携わっている(代表者会議には今年度より辻岡に替わり三井が出席)。

◆地域団体

法人が事務局を務めるわらしべワークプロジェクトの実行委員会をはじめ、地域団体との連携、協同を目的とした会議体に参加する他、令和 3 年 12 月より常設型フードドライブを開設する等、地域貢献にかかる活動への参画を進めた。その他、町田市社会福祉協議会の生活支援団体ネットワーク会議、小山地区の団体が定期的に情報交換を行う町田西情報交換会、町田市高齢者支援センター等が参加する 8050 情報交換会等に参加、地域における情報交換及び共有と交流を図っている。

3.運営費の確保

◆助成金

前年度総会であげた

- ・公益財団法人トヨタ財団 2021 年度国内助成
- ・社会福祉法人丸紅基金 2021 年度（第 47 回）社会福祉助成金
- ・社会福祉法人赤い羽根共同募金

は全て採択された（総額 7,446,551 円）。

これにより全体の事業収益は増えたが、これらの多くは単年度助成であるため、安定した事業運営を考えると外部財源に依存しない自主財源の確立が今後必要である。令和 4 年 1 月より、公益財団法人トヨタ財団の主催する事業改善プログラム「カイケツ」に職員が参加、アサーション事業の拡大等について検討を進めている。

トヨタ「カイケツ」<https://www.toyotafound.or.jp/kaiketsu/2021/>

社会的課題の解決に取り組む NPO 等の非営利組織を対象に「代表者に仕事が集中する」「業務効率が悪い」「業務品質がばらつく」など、事業を進めていくうえで発生する問題を解決していく力を身に付け、地域や社会の課題解決の担い手としてより大きな成果を出していただくことを目的に「問題解決」手法を学ぶ講座。

4.広報活動

令和 3 年 8 月にホームページリニューアルを行った。NPO をはじめとする、様々な民間支援機関の HP デザインや改修、リーフレットデザインを数多く手掛ける株式会社創造集団 440Hz に発注。同社の蓄積されたノウハウを活かし、援助希望者に対する訴求性の高いデザイン/レイアウトを実現した。また、リニューアルに伴い、法人への協力と賛同（入会/寄附）方法が明快になるようコンサルテーションを受け、日々の情報発信にも工夫を行っている。

若者支援事業部より

令和3年度活動実績

(オンラインを含む) 活動日 271日 (252日)
 フリースペース開所日 168日 (152日)
 カウンセリング件数 235件 (247件)
 訪問 (アウトリーチ) 件数 45件 (49件)
 わらしべワークプロジェクト件数 78件
 のべ利用者数 639名 (609件)

令和3年度上半期活動実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
活動日 (オンライン含む)	23	18	22	24	20	20
フリースペース開所日	16	11	13	16	12	12
カウンセリング	21	16	17	28	27	26
訪問 (アウトリーチ)	4	3	4	4	4	4
わらしべワークプロジェクト	1	2	8	8	2	8
利用登録者数 (世帯)	33			33		
フリースペース延べ利用人数	170			168		

令和3年度下半期活動実績

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動日 (オンライン含む)	26	24	25	20	22	27
フリースペース開所日	18	16	16	8	14	16
カウンセリング	21	25	23	19	22	29
訪問 (アウトリーチ)	5	4	4	4	2	3
わらしべワークプロジェクト	12	8	8	7	6	8
利用登録者数 (世帯)	33			34		
フリースペース延べ利用人数	175			126		

自己表現サポート事業より

令和4年2月22日にせりがや公園内のせりぼう（せりがや冒険遊び場）にて約2年ぶりとなる Youdo ! Festival2022 を実施、たくさんの方にご来場いただいた。



アサーションは法人主催ワークショップを2回実施。ひきこもり当事者やご家族、ゆどうふのボランティアスタッフ等、アサーションを学びたい、コミュニケーションに悩みを抱えているといった方にご参加いただいた。また法人ワークショップ以外でもさがみはら若者サポートステーションや KHJ 町田家族会等、多様な生きづらさを抱える若者当事者や家族、彼らの支援活動を行っている関係機関からもオファーをいただき出張プログラムを提供している。